

令和2年度

兵庫県立視覚特別支援学校

支援部

アイ・あい だより



9月号

## テニスの日



9月23日は、秋分の日ですね。この日は、テニスの日でもあります。テニスの普及、発展を強力に推進するため、誰もが楽しめる国民の祝祭日であること、北海道から九州・沖縄まで全国各地で同時に楽しくプレーするために気候的に最適であることなどを考慮したそうです。

みなさんは「ブラインドテニス」という競技をご存じですか？  
1990年に日本で考案されました。視覚障害者と晴眼者が共に楽しめるスポーツです。

視覚障害者がプレーする球技というと、卓球やバレーボールなど、ボールが平面を移動する二次元スポーツがほとんどです。

しかし「ブラインドテニス」は、高さの要素が加わった三次元スポーツです。

弾むと音の鳴るスポンジボールを、全盲クラスは3バウンド以内、弱視クラスは2バウンド以内で打ち返します。空中に浮いているボールをラケットで打ち返すので、ラケットを通して手首や腕にボールを打つ感触が伝わります。その打球感は、とても爽快だそうです。



視覚障害者にとって、高さは把握し難い要素で、浮いているボールを認識することは難しく、更にそれをラケットで打ち返す「ブラインドテニス」は、難易度の高いスポーツといえます。



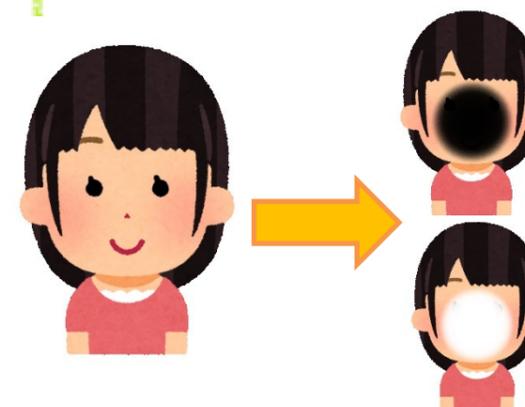
本校の高等部理療科でも、ブラインドテニスをするところがあるそうです。初めのうちは、感覚がわからずボールを打ち返すことが困難でも、回数を重ねることで打ち返すことができる生徒もいるようです。もし機会があれば、みなさんもチャレンジしてみてください。

## Field Of View

視野障害とは、大きく暗点、狭窄、半盲の3つの種類に分けられます。暗点とは、部分的に見えないところがあることです。今回は、周辺部は見えるけれど、中心部が見えにくい状態である「中心暗点」についてお話しします。

中心暗点は、網膜の中でも錐体細胞が一番多い黄斑部から視神経の始まりである視神経乳頭までの障害によって起こります。中心視野が見えにくくなり、視力の低下とともに、色覚も侵されることがあります。

中心暗点をきたす疾患としては、視神経炎、黄斑変性症、緑内障、レーベル病などがあります。



中心暗点の見え方は、人によってそれぞれ違いはありますが、中心視野の部分が見えづらく感じることがあり、自覚症状として気づきやすくなります。

包丁で野菜を切る、定められたマスに字を書くなど、手先の細かい作業はかなりつらく感じます。また、見ようとする所が見えにくくなるため、人の顔の認識が難しくなり、「のっぺらぼうに見える」と表現する人もいます。

人の顔の認識が難しくなることで、人付き合いや外出をすることも億劫になりがちです。また、中心暗点の人は、「そらし目」を工夫して使っていることがあります。そらし目を使うことで目標物や人の表情が見やすくなります。しかし、視線がまっすぐではないため、会話をしているときに「相手の顔を見ない」と誤解をされることがあります。本人が対人関係を苦手としないように、家族や周囲の理解やサポートが必要となります。

学習では、本やプリントに書かれた絵や文字の見たい部分が見えない、細部がわからないと感じます。文字を大きくしたり、拡大したりすることで、周辺視野を使って文字を確認しやすくなります。中心暗点があっても周辺視野が使えると、移動などの行動に制限が少ないため、周囲からは、文字が見えづらいことを理解してもらいにくい傾向にあります。